

5歳児クラス < 5月 富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」 >



やさしいK-ART

テーマ《神奈川沖浪裏ワーク》

日本で最も知られた浮世絵師、葛飾北斎。
ゴッホやモネにも影響を及ぼしました。
今回は空の色にこだわしましょう！

< テーマを決める >

日本のお金に描かれている絵ってどんな絵だろう・・・。

10,000円札の裏は、現在は東京駅、5,000円札は藤の花、1,000円札の裏には浮世絵。

この1,000円札に描かれている富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」は、「世界で最も有名な絵」と言われるくらい有名で、誰もが知っている葛飾北斎の作品です。

この作品は「静と動」のコントラストで自然の雄大さを描いていると言われます。そのため、遠くに小さくてもどしっと構えている富士山、そして手前に荒々しい波、船と人があることで遠近法で動きのある波はさらに激しく、遠くの富士山はいつも変わらず静かに感じます。

< 問いを考える >

○構図に関する問い

「今のお札に描かれている絵って知ってる？」

「この絵は見たことある？」 「この絵を見て感じることは何か？」

「お札以外でどこで見たかな？」

「細かく見ると何が描かれているかな？」 「この小さいものは？」 「波の形はどう感じる？」

1. キャンバスボード 1 枚
2. 波パーツ 1 枚
3. タイトルパーツ 1 枚
4. 見本 1 枚
5. キットパス (ベージュ、グレー、白)
6. オレンジカップ (水大さじ 1 程度)
7. 筆
8. ベビーパウダー
9. ボンド



< 環境をデザインする >

「作品の一部を担うことで作品作りを通じて興味を持たせる」

子どもたちがこの作品を 1 から全て描いて完成させることは至難の業です。しかし、限られた時間の中で、一部を担うことで作品に興味を持ち、しっかりと観察をして、作品を完成させていくための材料を準備します。今回は「空」の色付けを担い、波や富士山がより際立つようにキットパスで塗っていきます。

「波と富士山と船と人」という細かい部分は貼る。

今回はハサミは使えないので、あらかじめ切っておいたパーツを貼って作品を完成させます。

5歳児クラス < 5月富嶽三十六景「神奈川沖浪裏」 > 実施報告



5/19 年長：12名

《葛飾北斎：神奈川沖浪裏》

見本を見て「わあ!」「見たことある!」と歓声が上がりました。年中さんに続き、「葛飾北斎」の名前をみんなで言うところからスタート。

「波は大きいのに、なぜ富士山は小さいの?」という問いには「すごく遠くにあるから!」と反応が。

遠くのは小さく、近くのは大きく見える"遠近法"についても、しっかり感じ取ってくれました。激しい動きの大きな波と、静かに構える富士山の対比についても真剣に聞いていました。

制作では、キットパスを側面塗りしたあと筆に水をつけて横方向に伸ばす技法に挑戦。キットパスが水に溶けていくことに驚き、目を輝かせていました。ポイントをしっかり押さえながら丁寧に取り組み、雰囲気のある空の色になりました。波の白い部分や富士山の雪、さらに雲や波しぶきも描き込み、それぞれ迫力ある作品に仕上がりました。完成した自分の作品を満足気に眺めており、「次のすくわくは何をするの?」とすでに次回の活動を楽しみにする様子も見られました。

